# 大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

# 2018 (平成30) 年 第27週 (7月2日~7月8日)

#### 今週のコメント

~RS ウイルス感染症~手洗いが重要

## 定点把握感染症

#### 「RS ウイルス感染症 流行の兆し」

第27週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は前週比3.2%減の2,392例であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ5.0、2.5、1.0、1.0、0.7であった。

感染性胃腸炎は前週比 6%減の 984 例で、南河内 10.6、泉州 6.4、中河内 6.0、北河内 5.5 である。

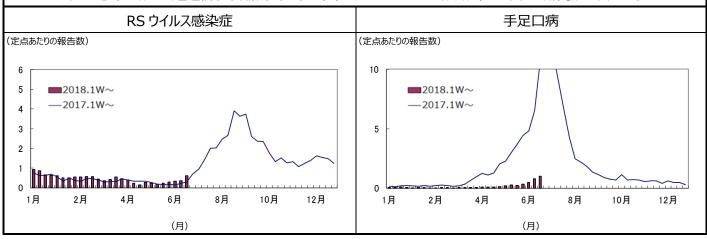
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 13%減の 502 例で、南河内・堺市 3.4、中河内・豊能 2.9 であった。

手足口病は30%増の201例で、泉州3.2、北河内1.9である。

ヘルパンギーナは 25%増の 189 例で、大阪市北部 2.1、北河内 2.0、豊能 1.7 であった。

流行性角結膜炎は124%増の38例で、大阪市南部2.8が目立つ。

RS ウイルス感染症が、5 週連続して増加している。昨年よりもさらに立ち上がりが早く、今後の動向が注目される。



#### 表1.大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 27 週 7月 2 日-7月 8 日)

第 27 週 の順位	第 26 週 の順位	感染症	2018 年 第 27 週の 定点あたり 報告数	前週比增減	2017 年 第 27 週の 定点あたり 報告数	2018 年 第 27 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値		
1	1	感染性胃腸炎	5.0	6%減	5.7	1歳_15%		
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.5	13%減	2.9	3歳_14%		
3	4	手足口病	1.0	30%増	11.0	2歳_27%		
4	5	ヘルパンギーナ	1.0	25%増	1.5	1歳_25%		
5	9	流行性角結膜炎	0.7	124%増	0.6	20 歳以上_76%		

## 第27週のコメント

~レジオネラ症~ 毎年、大阪府内で 65-80 例程度、全国では 1600 例程度、報告されている

## 全数把握感染症 レジオネラ症 レジオネラ症は、レジオネラ・ニューモフィラ (累積報告数) (Legionella pneumophila) を代表とするレジオネラ属 菌による細菌感染症である。土壌や水環境に、普遍的に 存在する菌である。人工環境(噴水等の水景施設、ビル · · · · 2015 屋上に立つ冷却塔、ジャグジー、加湿器等)や循環水を 2016 70 利用した風呂から発生したレジオネラ属菌を含むエアロゾル 60 2018 を吸入することで感染する。ヒトーヒト感染はない。健常者 も罹患するが、細胞性免疫機能が低下している、乳幼児、 高齢者など、喫煙者、大酒家は重篤化する可能性が高 い。 感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク) 感染症の話(国立感染症研究所)

## 表 2. 大阪府全数報告数 (2018(平成30)年 第27週 7月2日-7月8日)

\*)注意:この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

	疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数 積
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3	1		1				1		92
	E型肝炎	1			1						7
4 類感染症	A型肝炎	1								1	23
4 投怨未定	重症熱性血小板減少症候群	1		1							1
	レジオネラ症	7	1		1		3	1	1		54
	アメーバ赤痢	2			1					1	40
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	6	1	1				4			86
	急性脳炎	1								1	14
5 類感染症 (麻しん、風しんは	クロイツフェルト・ヤコブ病	1							1		8
除く)	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1			1					169
	梅毒	16		1	2			2	1	10	610
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1								10
	百日咳	15	1	1	4		1		1	7	233
(2018 年 5 月分) (府内累積報告数 723 名、内 肺·喀痰塗抹陽性 285 名)											

(週)